

2018年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

学科・研究科専攻名 福祉行政学科

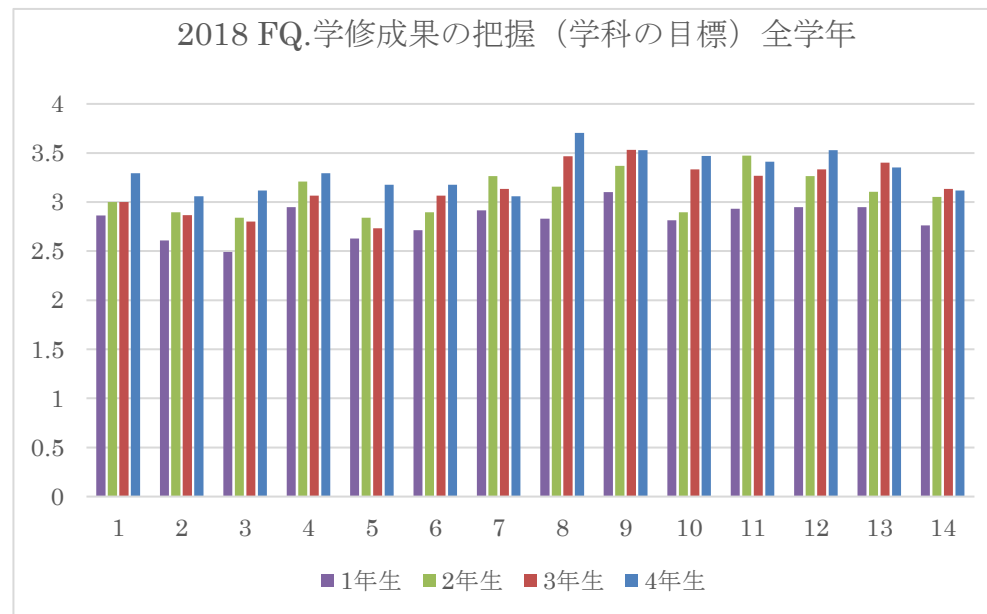
各設問について、1～6（全くそう思わない～非常にそう思う）の選択肢とした。得点化した平均値の結果が右の図である。

福祉行政学科のDPを踏まえた「学びの志ふり返し」に対し

1. 基礎的知識（平均 2.97）
 2. 専門的知識（平均 2.76）
 3. 応用的知識（平均 2.69）
 4. レポート作成力（平均 3.06）
 5. ICT 活用力（平均 2.76）
 6. 論理的思考力、クリティカルシンキング力（平均 2.86）
 7. 問題解決力（平均 3.03）
 8. コミュニケーション力（平均 3.11）
 9. 自己管理能力（平均 3.27）
 10. チームワーク、リーダーシップ（平均 3.00）
 11. 倫理観（平均 3.15）
 12. 市民としての社会的責任（平均 3.15）
 13. 創造的思考力（平均 3.10）
 14. 社会における顕在的・潜在的ニーズ発見と解決策の提案（平均 2.92）」
- になっている。

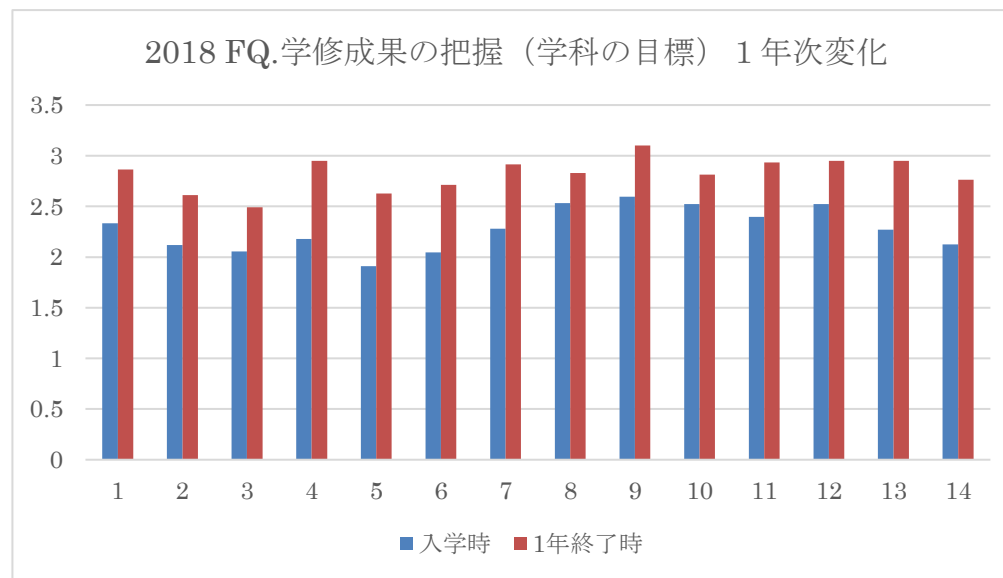
「あまりそう思わない」「ややそう思う」と「そう思う」という割合が高く、ディプロマポリシーに照らした取組は適切かどうか検討を要する。しかし学年が上がるにつれすべての能力が上乘しているのが分かる。

自由記述では「この質問を通して私は知識の獲得・修得には励んでいるがそれを活用していこうという意思が足りないことに気がつかされた。レポートやプレゼンについては昨年度よりもよくなったと思うが、他については受け身になっており、昨年度から変化していないように感じた。将来は今ここで学んだことを活用していくと思うので、来年度からは知識の獲得・修得に加え、活動や行動ができるように励んでいきたい。」「福祉行政学科の学生として本学科ならではの行政意識をもって取り組むことができました。教授や同級生・先輩との交流も積極的に行い、自分の知識の泉を広げることができました。」「高校まで触れることのなかった学習の仕方を学び、学習面、精神面、思考面などが飛躍的に向上した一年間であった。また、能動的に自由に学べるというこ



ろから、積極性に磨きがかかった一年間であった。」「リエゾンゼミで、プレゼンテーションをするためにグループを作った。その中で、私はグループのリーダーとしてグループをまとめることができた。これからはこの経験を経て、リーダーシップを発揮していきたいと思う。」など実践的な学びを期待している傾向があった。そのため入学前教育に社会貢献や福祉の観点を取り入れた課題への取り込みを促す対応が必要であろう。

ところで、1年生だけを分析したのは、右の図のような答えが得られている。つまり、入学時に抱えていた不安が、1年間の学修を通じ改善されていると思われる。特に伸びがあったのは「4. レポート作成力（平均2.18→2.95）」で入学前教育の効果とも解釈される。「5. ICT 活用力」「6. 論理的思考力、クリティカルシンキング力」「13. 創造的思考力」「14. 社会における顕在的・潜在的ニーズ発見と解決策の提案」の成長も他項目より高い伸び率が見られるが、自由記述で「ゼミのおかげでレポートの書き方などをしっかり学ぶことができよかったです。また自分なりの考えをしっかりと持ち、大切にできるようになったので結構よかったですのではないかと思います。」「一年間のゼミを通して、大学生活で最も重要なレポート作成の方法や、チームワーク、コミュニケーション能力についての大切さを実感することが出来ました。」などが書かれており、リエゾンゼミでの学修が功を奏していると思われる。また「私はリエゾンドリルで基礎知識を高めました。私はスポーツ推薦で入り、基礎知識が低かったのでリエゾンドリルをすることがとてもいいけいけんになりました」などリエゾンドリルに対する効果も今後期待できると思われる。



このような点を踏まえて、学科の DP に対する検討と平均値が低かった専門的知識や応用的知識を養うための努力が必要であると思われる。